

令和5年度第1回小郡市地域福祉計画策定委員会 議事要録

○日時

令和5年11月24日（金）18：30～19：50

○場所

小郡市役所本館3階 大会議室

○出席委員

中村秀一委員、森勝則委員、平島加代子委員、古賀敏幸委員、熊手須美子委員
野田利郎委員、池田恵子委員、渡辺早苗委員、西岡美勝委員

○欠席委員

島田昇二郎委員、佐々木登美子委員

○議題

- (1) 第2次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画について
 - ・計画の概要等について
 - ・令和4年度進行管理について
- (2) 第3次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画について
 - ・策定方針、スケジュールについて
 - ・市民参画による計画策定の概要等について

○協議内容

委嘱状交付、部長あいさつ、委員自己紹介を行った後、委員の互選により、中村秀一委員が会長に、森勝則委員が副会長に、それぞれ選出された。

会長および副会長のあいさつ後、会長の議事進行により、2つの議題について事務局より説明を行い、以下のような質疑応答が行われた。

(1) 第2次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画について

委員：みんなで地域を支える仕組みづくりについて、ボランティアの皆さんもがんばっていると思うが、それ以外にも、地域の公民館などで自分たちだけで活動している人たちもいることを知ってほしい。例えば音楽や料理、パッチワークなどを行っている（そこに来ている人の大半はお年寄りという状況）。月謝についても、材料費と自分たちの交通費になる程度でがんばっており、地域に貢献していると思う。こういう人たちがいるということを知ってほしい。

会長：地域にはサロン等も含めて活動をしている方々がたくさんおり、そういう場所がたくさんあることが、孤立の予防や生きがいを感じることに繋がってくるので、そういうところの把握は非常に大事なことだと思う。

基本目標2のみんなで地域を支える仕組みづくりのところについて、民生委員の欠員問題は、小郡市だけでなく全国的な状況であるが、資料の一番下の「次年度へ向けて」のところに書いてある担い手の過度な負担とならない活動内容の見直しはとても良いと思う。主任児童委員を含めて民生委員は法律で職務などが規定されており、民生委員さんが市民を支援することは当たり前かもしれないが、その民生委員を支援する仕組みなどがあると良いと強く感じている。そうすることで、民生委員のなり手をきちんと確保していくことが大事であり、次年度に向けてこれができるらいいと思う。

委員：地域支え合い推進員養成講座（長寿支援課）に高齢者の居場所づくりとあるが、講座の開催のような日時を限定するものでなく、高齢者の方が「天気がいいから」な

ど簡単なきっかけで出かけて、そこに行けば、誰か知り合いがいるという場所を作ることにはできないだろうか。例えば、近くのスーパーに知った人がいるかもしれない、そこに椅子でもあれば話ができる場所になる。また、お腹がすいたらそこでお弁当などを買って食べて帰るなど、そのような場所があったら良いと周りでも話している。

事務局：高齢者の居場所づくりについて、サロンなどでは催しを行うことが多かったが、最近では、催しの準備が大変ということもあり、場所を開放してお茶菓子やお茶を提供し、自由におしゃべりをしてもらう取り組みが少しずつ広がってきている。また、資料にも挙げている「支え愛隊小郡」では、そういう場を作っていきたい人たちが、意見交換や先行事例の視察などを行い、自発的にそういう場所を地域の中で増やしていこうという取り組みがある。また、コロナ禍で公共施設での飲食等が難しい期間が続いたが、校区コミュニティセンターなどでは、机や椅子をいくつか置いて、自由に入出りできるようなサロンのような広間を準備し、使ってもらおうという動きもあった。どうしても日時は限られるが、気兼ねなくいつでも行けるような場を作る動きはある。

副会長：私の校区のコミュニティセンターでは、カフェ等が年間38回ぐらいあっており、来られる方は、大体が顔なじみのようである。

委員：私は主任児童委員だが、校区の民生委員児童委員協議会の代表をしている。以前は、主任児童委員は校区の代表にならないという話があったが、経験者が減少し、代表として走り回っている。私の校区でも「くろつちカフェ」という活動があり、今までは年に数回だったが、今年から毎月第3土曜日の実施となった。12月は朝10時から15時までカレー作りや餅つきを予定している。いろんなところで活動ができてきているので、ぜひ私の校区へも見に来てほしい。

委員：基本目標2の「みんなで地域を支える仕組みづくり」にある「ふれあいネットワーク」などは以前から携わり、自分の中でも仕組みが分かってきたが、さきほど話に出た公民館活動などは、どういう活動分野で市の担当がどこなのかも知らない。また、妻が区の会計をしているが、子ども会など出事や行事も多く、区も様々な活動をしっかりと継続している。これらの活動は、福祉活動の担い手育成や居場所づくり等とどのような関係があるのだろうか。例えば、公的に計画を作り、社協を中心にネットワーク作りや団体を育成していくことなどは資料にもあるが、公民館や区の活動については、よく分からない。以前ほど市が関わっていないのだろうか。しかし、公民館や区をベースとして色々なことが行われている。他にもいろんなボランティアや活動をしている方がいるが、区や公民館を含めて、これらの活動をきちんと評価して、元気をだしてもらうことは大事だと思う。自助・共助・公助で住み分け、ベースとなるような団体の育成に必要な費用は支援してほしいと思った。

委員：老人クラブでは、会員に年間行事を配布・周知している。各校区では協働のまちづくりの中で、福祉部会や環境部会などいろんな活動があると思うが、私の校区でも定期的にサロンを行っている。定期的に活動はあっているが、知らない人が多い。例えば各校区でどんな活動が何曜日に行われているのかなどを分かるようにしたら、今度出かけてみようと思う人もいるだろう。私も今日の説明を聞いて「喜楽塾」に参加してみようかなと思った。認知症サポーターなども良いようであれば、老人クラブの活動にも取り入れようと思うわけであり、情報共有は大事だと思う。まちづくりや居場所づくりと言っても分からない人の方が多いということを確認して取り組まないといけない。

事務局：自治会・行政区は、小郡市の地域自治の根幹だと思っている。コミュニティ推進課

が主に区長会の事務局として研修等を行っている。今年度の取り組みだが、全区長を対象とした研修会をコミュニティ推進課の主催で開催し、地域の見守りをテーマとして、社協も講師に入っただき、サロンや見守りの状況、ふれあいネットワーク活動について、改めて研修を行った。このような形で自治会をベースにした見守りの取り組みが今も活発に続いており、コロナ後の再開をしてきたところである。先程の意見にもあったように周知・PRは大事だと思われる。

委員：各校区では、以前より活発にサロン活動などを展開している。しかし知らない人が多いということが問題であり、解決していかなければいけない。

事務局：ご意見として承る。

会長：今後この辺りをどう拡大し、調整していくかについては、いろんな意見があると思う。第3次計画にきちんと反映していければ非常に有り難い。この後、第3次計画についての説明があるので、説明を受けて、またご意見等をいただければと思う。

(2) 第3次小郡市地域福祉計画・地域福祉活動計画について

会長：私は幾つかの市町村の計画策定に携っているが、小郡市は2年度にわたって計画の策定を行うことが特長である。1年で策定する自治体が多いが、市民座談会での生の声を取り入れていくなどの調査は非常に時間がかかる。期間をかけることで市民のニーズが計画に反映されやすくなるため、良い取り組みと思っている。1年では、限られた期間でいかに進めるかにどうしても注意が向いてしまうが、調査結果や意見をどう反映していくか、委員会の中できちんと話ができると思う。

事務局：今日の説明は策定方針やスケジュールだけなので、ご意見が難しいと思う。今年度はさまざまな調査・分析を行い、その結果を来年度の最初の委員会で報告できたらと考えている。調査結果を分析した報告書の形で取りまとめる予定であり、その際には、改めて意見・質問等をいただければと考えている。

副会長：市民ワークショップの出席者はどんな方を考えているのか。

事務局：基本的には公募で広く入っただけであればと考えているが、地域単位で開催のため、募集に当っては区長や民生委員の力をお借りして、地域での見守り活動に携わっている方々などが中心になってくると考えている。内容については、アンケートや分野別調査を行った上で、テーマなどを決めていこうと考えている。

会長：ひとつ目の議題であった通り、第2次計画において課題として残るものも早急に解決しなければならない。第3次計画の策定に向けては、新しいことだけでなく残った課題を重点項目として据え置くかどうかなど、持ち越しの課題をどのように反映していくかについてもご意見をいただければありがたい。本日出た意見等を地域福祉計画に入れるのか、それとも、例えば高齢者の問題であれば、高齢者福祉計画の中で具体化し、連携を図るなどの方法も考えられるので、そのようなところを整理しながら進めていくことが出来れば良いと思う。地域福祉計画に何をどこまで入れていくのかは難しい問題である。事務局から説明があった通り、すべての課題を細かく入れるのではなく、各福祉分野の計画と連携し、整合性を図りながら進めていくということにご理解をいただきたい。

最後に、事務局から以下の事務連絡の後、副会長より閉会のあいさつがあり、本会議は終了した。

① 本配布した資料に協議内容に対する意見書の様式がある。説明も簡略化し、会議の時間

制限もあったため、質問・意見等があればこの様式で福祉課まで提出をお願いします。意見に回答が必要なものがある場合には、本日の議事録を作成後、公開前に確認のためにお送りする予定なので、その際に合わせてお送りする。

- ② 本日出た意見は、関係部署とも共有をして、今後の取り組みに反映していけるよう検討していく。
- ③ 来年度は会議を3回ほど予定している。引き続きご協力をお願いしたい。

【会議後 小郡市地域福祉計画策定委員会 協議内容等に対するご意見（要約）】

＜意見書でのご意見＞

【ご意見①】

会議でも話したが、各校区コミュニティセンターでは、色々なサークルが活動している。地域の福祉については、福祉課だけではなくコミュニティ推進課なども交えて考え、このようなサークルを運用して自分の好きなことができる高齢者の居場所づくりを進めるなど、視野を広げて計画を推進することを願う。

年をとると家に籠りがちだが、ふと話し相手が欲しくなることがある。昭和時代のエンガワ（縁側）みたいなおしゃべりの場があると良いと思う。そんな場に散歩中の親子連れも加わり、お話ができれば孤立を防ぐ手段にもなるかもしれない。夢みたいな話かもしれないが、私達が子育てをしている頃には、そんな場があった。

母子クッキングの活動で、若いお母さん方がスタッフに話しかけ、経験豊かなスタッフはニコニコと話を聞いている。それだけでお母さん方が安心した表情に変わる様子は見ていて嬉しい。

【ご意見②】

計画策定の目的等は理解できたが、最終的に具体的には何が変わるのだろうか。

各種事業や取組の担当課が一般市民にも分かりやすくなると良いと思う。市民主体の取組については、分かりやすく情報発信をしていく必要があると思った。

また、仕組みづくりが出来たとしても、それを支える人材が集まらないことには実現が出来ないので、やはり担い手の育成が一番の課題であると思う。

（事務局）

第3次計画の具体的な内容については、アンケート調査や地域座談会などの基礎調査と現在の第2次計画の進捗状況の評価を行ったうえで検討していきたいと考えています。今回の会議でも多くのご意見をいただいた情報共有、居場所づくり、担い手育成などは、現在の計画から継続する重要な要素になっていくと考えています。